

## あとがき

摂津峡へ自転車で10分ほどの芥川流域内に自宅があり、上流部川添いの府道6号線は、今では京都市右京区となった丹波の実家に行き来する道である。また、芥川漁協の養鱒場から摂津峡下流端までの中流部では、現場での毎回の流量測定と採水による農薬も含めた流下過程の水質変化調査を実施した身近な里川である。芥川は、三川（桂川・宇治川・木津川）合流後に淀川に流入する支川では、交野・枚方市の天野川に次いで流域面積が大きいので、下流端の鷺打橋上流次郎四郎橋で、3日に1度の流量測定を含めた高頻度の定時水質調査を数年間継続した河川でもある。現在は、ホタルの育成、魚の遡上をはじめ、多くの人たちの多様な親水活動の取り組みで、ひとと森、ひとと水、ひとと生き物が共生する川となりつつあること実感している。

(社)日本水環境学会関西支部川部会／海老瀬 潜一

## 参考文献

- ・海老瀬潜一(2005)関西の川歩き No.17芥川ー桜とホタルの摂津峡ー, 環境技術, 34(9), 670-672.
- ・エリアマップ, 山と高原地区51, 京都西山(1995), p48, 調査執筆／赤松滋, p10.
- ・大阪府ホームページ資料
- ・高田郁(2010), 銀二貫, 幻冬舎文庫.
- ・日本地質図体系, 近畿地方(p.126), p48-53, 監修:地質調査所, 朝倉書店(1996).

[写真提供]  
・高槻市

## 既刊の紹介

- ・みやびな川 編 『白川』(2010)
- ・歴史とロマンの川 編 『瀬田川・宇治川』(2010)  
『保津川・桂川』(2011)

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構  
<企画編集>(社)日本水環境学会関西支部川部会  
(社)近畿建設協会

### 琵琶湖・淀川 里の川をめぐる

～ちょっと大人の散策ブック～ 歴史とロマンの川 編

### 芥川 (Akutagawa)

[発行] 平成23年6月  
[発行者] 財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構  
〒540-0008 大阪府中央区大手前1-2-15 (大手前センタービル4F)  
TEL. 06(6920)3035 FAX. 06(6920)3036  
<ホームページ> <http://www.byq.or.jp>

©BYQ, 2011 Printed in Japan

「 飲める水 遊べる水辺 次世代に 」

# 琵琶湖・淀川 里の川をめぐる

～ちょっと大人の散策ブック～

歴史とロマンの川 編

## 芥川

(Akutagawa)

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構  
(社)日本水環境学会関西支部川部会  
(社)近畿建設協会



## 「琵琶湖・淀川流域散策ブック」のねらい

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構と(社)日本水環境学会関西支部川部会は、大都市圏の川を水質という側面だけではなく総合的に把握し、その機能を再評価するために川部会が2001年より行ってきた活動の成果を基礎に、「琵琶湖・淀川流域散策ブック」をまとめることになった。

この散策ブックは、琵琶湖・淀川流域の河川を散策する時に気軽に携帯できるガイドブックを意図して作られており、対象河川の概要はもとより、流域の見どころ、名水や滝、水質や生物、その川にまつわる興味深い話などが、豊富な写真や地図を用いて解説されている。

散策ブック全体は、それぞれ5、6リーフレットからなる、「源流を行く」、「おうみの川」、「みやびな川」、「歴史とロマンの川」、「なにわの川・庶民の川」の5編で構成され、本リーフレットでは「歴史とロマンの川」編として、高槻市を北から南に貫流し、摂津峡で有名な芥川を取り上げた。

本ブックシリーズが、琵琶湖・淀川流域の河川に親しみを感じ、流域を散策するための一助になることを願っている。

## 1 芥川の概要

桜で有名な芥川は、水と緑豊かな溪谷美や、京都西山ハイキングコースの西口でも知られた摂津峡(名勝)を中流部に擁し、高槻市を北から南に縦断する淀川支川である。JR東海道線高槻駅のすぐ西側を流れ、枚方大橋(国道170号)下流側で淀川に注ぐ、流路延長25.6km、流域面積46.5km<sup>2</sup>の1級河川である。上流域は摂丹山地と称され、京都府(丹波・山城)と大阪府(摂津)の府境界のポンポン山(679m)に近い小塩山(642m)や明神ヶ岳(524m)から流れ出る清流で、高槻市街地の北端部の摂津峡が北摂の桜の名所、ハイキングコース、フライフィッシングのメッカとしても有名である。

JR東海道線新快速停車駅「高槻」や阪急京都線特急停車駅「高槻市」が最寄り駅である。JR高槻駅北側は旧西国街道「芥川宿」の宿場町であり、中流部の摂津峡の左岸側山地には戦国武将の三好長慶の芥川山城跡が、下流域にはキリシタン大名高山右近ゆかりの高槻城跡もある。

芥川流域内中央部には、東西に有馬-高槻断層が走り、下流部では西側から支流の如是川(女瀬川・によぜがわ)が合流する。地質的には中生代の三波川変成岩地域であり、洪積層の砂岩・泥岩が主となっている。如是川流域には、真の継体天皇陵といわれる規模の大きい前方後円墳の今城塚古墳も存在するなど、古代の歴史を刻んだ流域でもある。



芥川流域図

### 目次

ねらい・目次	
芥川の概要	02
摂丹山地 芥川上流ゾーン	03
摂津峡 芥川中流ゾーン	06
コラム1 神峰山寺・本山寺	07
コラム2 芥川の水質	10
桜堤公園 芥川下流ゾーン	11
コラム3 芥川倶楽部	12
コラム4 今城塚古墳	13

### CONTENTS

(表紙写真/こいのぼりフェスタ1000の芥川の桜堤公園)

## 2 摂丹山地 芥川上流ゾーン

芥川を北の上流部から南の下流部に向かって見てみると、上流部の京都府と大阪府の境界近くには、京都西山ハイキングコースで有名な**ポンポン山**が存在し、多くは**東海自然歩道**と重なっている。芥川の摂津峡上流端からは亀岡市方面に抜ける**府道6号**が芥川沿いを走り、JR高槻駅北口から**杉生**(すぎお:市営バス終点)までは高槻市営バスの運行路線でもある。

芥川最上流部は**明神ヶ岳**付近を水源とする**田能川**とその南東の**小塩山**付近を水源とする**出灰(いずりは)川**の2つの支流に分かれる。高槻市最北部の田能川流域の檜田地区は、四周を山に囲まれながら少し開けて水田の見られる山里の景観



分水嶺の檜田トンネル



源流部付近



明神ヶ岳登山口



檜田地区民家と田園風景



閉園されても残された高槻花しょうぶ園としゃくなげ園の看板



檜船神社



檜田校前のJA農風館



檜田小学校



城の櫓風のゴルフ場入口



(上) 高槻森林観光センター入口と内部



檜田温泉館

が保たれ、ホテルも見られる里川として清流が維持されている。かつて、高槻花しょうぶ園やしゃくなげ園があったが、数年前に閉園してしまった。明神ヶ岳中腹には鎌倉時代初期に村人が神像と仏像の各二体を奉納したと伝えられる**檜船神社**がある。

「檜田校前」バス停の信号の北西角には、**JA農風館**が新装オープンし、地元の農産物を直売している。その西側に**檜田小学校**があり、信号の交差点を数百メートル下った左岸側には、**高槻カントリー倶楽部**のゴルフ場入口があり、鉄筋コンクリート造りと思われるお城の櫓が鎮座している。

檜田小学校は、地域的に近い東隣の京都市西京区大原野出灰町や外畑町地区の児童も委託されてはいるが、現在は児童数も少なく、山間の小規模校となっている。高槻市の特認校の指定を受けて、水や緑の豊かな自然に恵まれた環境の特徴を活かした体験学習などの特色ある教育活動を展開している。JR高槻駅北口からの市営バスの便もあるので、高槻市内からバス通学できる児童の入学・転学も受け入れている。

田能地区などが属する旧檜田村は、かつては丹波の国で京都府南桑田郡檜田村であったが、1958年に府境界を越えて大阪府高槻市に編入された。これは地図上で平らな府境界が凹凸(京都府が凹、大阪府が凸)になる府県境を越えた凹凸合併の最初の例となった。田能地区を北上して**檜田トンネル**(府道6号)を抜けた北側の高槻市杉生は、北流する**年谷川**流域となり、亀岡で保津川に合流する。

田能川を少し下った左岸側川沿いに、大阪府森林組合直営の**高槻森林観光センター**の施設が続く。**檜田温泉**(鉱泉)のほかに、しいたけセンター・木工クラフト及び木工加工センターがあり、



年間を通して多くの観光客が訪れる人気のスポットである。特に、遊具広場のジャンボローラーすべり台や林間の散策道などは人気があるようだ。

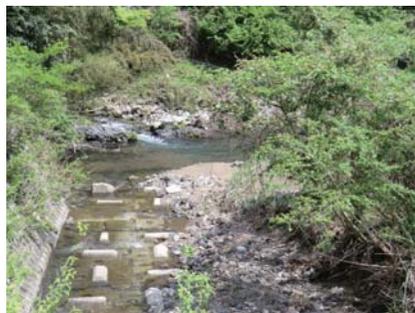
田能川をさらに南に下った「出灰」バス停近くで、支流の出灰川とその**両国橋**下流側で合流して芥川となる。出灰は、天皇から陵など造らず小塩山山頂(淳和天皇陵がある)から火葬にして遺灰を撒くように命ぜられたことから、京都府側の**灰谷・灰方**とともにその地名となったと言われる。

芥川となって少し下った**空谷(からたに)橋**の上流部左岸側で、府道6号の山側擁壁からの湧水を汲んで持ち帰るスポットがあり、湧水の水質検査をしているわけではないので注意を促す大阪府の立て札もある。この流域は、瀬戸内式気候の東端に近いためか、降水量はあまり多くない。田能川と出灰川が合流して流量が増えた下流側は、休日や夏期休暇中は子供連れの家族の川遊びで活況を呈し、ワゴン車の駐車列でバス道が狭められてしまう困った事態も生じている。さらに下った兩岸の山は、山砂の骨材採取のためにはげ山状態で、降雨時には芥川が濁る原因となっている。東隣の**桧尾(ひお)川**や西隣の**安威川**上流域にも**山砂利採取場**があり、同様の水質状況を呈している。

芥川漁業協同組合の**養鱒場**から**原大橋**にかけて府道6号が狭隘路であるため、現在バイパス路を建設中で間もなく利用に供される。原大橋から下流の摂津峡入口までは水田が見られる中流部になり、流れも比較的緩やかで、のどかな田園風景が続く。この地区は、約200年前の江戸時代から冬季の低温・乾燥条件を利用して、寒天づくりが行われていた。今も上流部の檜田地区で作られている。また、「とかいなか」と称して、どぶろく特区の認定を受け、どぶろく祭りが催されている。



両国橋



田能川(手前)と出灰川(左奥)の合流点(右側下流)



湧水のある擁壁



山砂利採取場



養鱒場

### 3 摂津峡 芥川中流ゾーン

「原大橋」の手前で府道6号を右手にやや狭い道を行くと**八坂神社**がある。スサノオノミコトを祭神とし、4月初めには大綱を大蛇に見たてて弓で射る「大蛇祭」が行われる。下流**下条橋**に向かって行くと、右手高台に「浄圓暮鐘」が詠まれた**浄圓寺**がある。元は芥川河畔にあったが水害で1703年に当地に移された。ここからは原盆地を一望に見渡せる。

また府道6号の「原大橋」と摂津峡上流

側入口「上の口」の両バス停の間に、北から「神峰山口」と「原立石」のバス停があり、何れも**神峰山寺(かぶさんじ)**や**本山寺(ほんざんじ)**への入口であり、府道6号を東に入って、両寺を経てポンポン山に至る東海自然歩道で京都西山ハイキングコースの入口でもあり、休日は若干年長気味と見られるハイカーたちもたくさん混じって賑わっている。

この原大橋上流の農業用水堰下流から



八坂神社



浄圓寺



原立石バス停(桶風のバス待合室)



神峰山寺山門



神峰山寺境内



本山寺参道



**摂津峡大橋**下流までの摂津峡上流側は、芥川漁協が河川敷を全面占有して、夏季は鮎、秋季から春季はマスやアマゴのルアーやフライフィッシングのできる魚釣り場となっている。摂津峡まで、流下方向におよそ7~10mの間隔に流水断面を区切って漁場とし、区画ごとに魚を放流している。その区切りは横断方向に河床材料の大きめの石やレキを並べて用い、出水時には流水の大きな妨げにならぬ程度のプール囲いとなっている。シーズン中は毎朝早く、芥川漁協の養魚場からマス等をポリペールで運び、一定数以上の魚を補給し、その区画に客が入る仕組みのようである。芥川漁協の魚釣り受付場は、信号のある「上の口」バス停から、西側の川に向かう坂道を約300m下った右側



本山寺境内



河川内の有料魚釣り場



瀬の部分の魚釣り場



魚釣り場に沿う遊歩道



摂津峡の紅葉



慶住院



対岸の三好山



白滝

の川傍にある。この道は、摂津峡へと続く道でもあり、このバス停の「上の口」と「下の口」(バスでは途中から別経路で別系統路線である)が摂津峡の出入り口となっている。

摂津峡は、大阪からJR高槻駅と高槻市営バスのアクセスの良さで、春の新緑や秋の紅葉の頃は、職場や大学等の親睦をはかるハイキングや水辺のバーベキューパーティで賑わうレクリエーションの場となっている。摂津峡へのアクセスは、バスの便数の多い「上の口」バス停から下って、**あくあびあ芥川**に至るハイキング客が多い。

摂津峡は、関西自然に親しむ風景100選や大阪みどりの百選の1つに選ばれているように、岩の間を縫って流れる清流と、春の桜や新緑、秋の紅葉の景観に恵まれて、耶馬溪(大分県)にちなんで、摂津耶馬溪とも呼ばれる景勝地である。芥川漁協の魚釣り受付場すぐ傍の下条橋から、魚釣り場と化している芥川を右に見ながら少し下って摂津峡大橋を渡ると、ずっと右岸側の遊歩道を川沿いに下ることになる。

少し行くと鬼子母神を安置した**慶住院**がある。ここより下流は少なめの流量ながら、白流が岩を好み、**夫婦岩・八畳岩・屏風岩・行者岩・立岩**等の奇岩に生んだ溪谷美が展開され、岩場の多い溪流河川となっている。対岸(左岸側)の小高い**三好山**(180m)には戦国時代に三好長慶が7年間支配した**芥川山城**の城跡が残る。摂津峡大橋から全体の3分の1ほど下った右岸側の谷間から、東海自然歩道沿いの支流が入る。この支流を80mほど登ると、2つの支流に分かれ、左手の支流が高さ約15mの**白滝**でそれまでの行程で少し汗ばんだ肌には一服の清涼感を与えてくれる。

この谷筋の山道を西にとると、東海自然歩道となっていて萩谷や竜仙滝を経て、安威川に至る。

## コラム ① 神峰山寺・本山寺

神峰山寺は、天台宗の根本山と号し、役行者創建と伝えられる修験道の霊場で、明和2(1756)年に焼失、安永6(1777)年に再建された新西国33ヶ所14番札所である。「原立石」あるいは次の「神峰山口」バス停より徒歩でそれぞれ25分、20分で、東海自然歩道沿いにある。紅葉の名所で、自然の地形を活かした庭園のほか、日本最初の毘沙門天(本尊)や阿弥陀如来像(重文)・聖観世音菩薩立像(2体、重文)・千手観世音菩薩・不動明王・四天王・地藏菩薩・十一面観世音菩薩等が安置される(仏像の拝仏は予約制)。近くの神峰山の森自然園には、林間歩道・自然観察園が備わっている。大阪みどりの百選の1つに、本山寺と神峰山寺の森が選ばれている。

本山寺は、神峰山寺よりさらに奥へ入った「神峰山口」バス停から6kmの東海自然歩道の沿いの急な坂道を上った山中にあり、山を分け入った深山幽谷の趣がある。天台宗で本山と号し、京都市の鞍馬寺・奈良県信貴山の朝護孫子寺とともに「三大毘沙門天」と称さ

れる。役行者の開山で、光仁天皇の開成皇子により770年頃の創建と伝えられ、天正10(1582)年焼失、慶長8(1603)年再建された。木々に囲まれ、奥まった境内の最後の急な石段を上ったところに本堂があり、毘沙門天立像、聖観世音菩薩立像、不動明王立像等が安置される。東海自然歩道は高槻市の川久保方面へとつながっている。



〔左上：神峰山寺と右下：本山寺〕

この清涼感溢れる遊歩道は水辺沿いの春の緑や秋の紅葉は、訪れた行楽客の心を和ませてくれる。遊歩道のおよそ3分の2を下った眼下の溪谷沿いに1軒、遊歩道の下流側入口(塚脇橋)上流側にもう1軒温泉旅館があり、それぞれ高槻駅との送迎バスがあり、春秋はとくに賑わっている。これらの温泉の泉質はアルカリ性単純泉であり、上記温泉旅館の1つが塚脇橋からバス通りを駅側に数百m行ったところにビル建ての屋上露天風呂付き温泉大浴場と温泉水の販売スタンドを営業し、近場や遠出の車で来た客で賑わっている。

下流側入口(塚脇橋)から上流へ少し上がった左側の高台には、桜の木に囲まれた野外ステージ付きの**桜広場**が整備され、市街地に近い中流部の**桜堤公園**とともに、桜の名所としてお弁当を抱えた人たちの憩いの場となっている。この付近の遊歩道沿いには、行楽シーズン中の休日には屋台の売店が営業している。摂津峡右岸側(西側)の森は「**匹見(ひきみ)の森**」(樹木教材園がある)や**摂津峡公園**として整備され、下流側入り口のさらに西側の道を登ると青少年キャンプ場もある。樹木教材園には47都道府県の樹木が集められ、摂津峡公園にはソメイヨシノが約3,000本あり4月上旬には摂津峡さくら祭りが開催される。

摂津峡の下流側入口(「下の口」バス停・塚脇橋)付近は、服部の地名から推測されるように古代の渡来系機織り部の里であったと言われる。右岸側の河岸段丘上の新興住宅街の南平台(かつてはゴルフ場)や桧尾川との間の古曽部台などでは、箱形埴輪や武人形埴輪が出土する古墳群が散在し、出土品は現在、南平台小学校近くの**高槻市埋蔵文化財調査センター**に保管されている。



桜広場と枝垂れ桜



温泉旅館と塚脇橋上流



温泉水販売スタンド



塚脇橋下流



遊歩道  
(芥川清水緑道)



対岸に迫る高槻市の住宅地



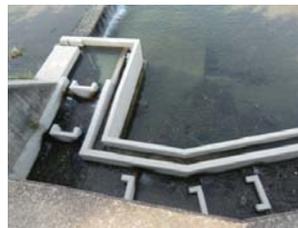
高槻市埋蔵文化財調査センター



あくあびあ芥川



あくあびあ芥川館内展示



あくあびあ芥川付近の魚道

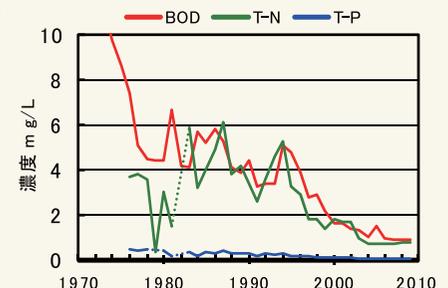
摂津峡下流側入口の塚脇橋から下流側約2kmの河岸段丘下の河川沿いには、途中に小さな公園もある遊歩道が整備され、のどかな水田風景の向こうに高槻市の住宅街が遠望できる。この流下区間は6月にはゲンジボタルやヘイケボタルが乱舞する清流が残されている。遊歩道下流端近くの河川沿いの斜面に、**あくあびあ芥川(芥川緑地資料館)**が存在する。あくあびあ芥川は、高槻市教育委員会が運営する入場無料の資料館で、多種多様な水生生物や高槻市内の動植物の展示があり、学芸員の指導による小学生の環境学習の場になっている。あくあびあ芥川の隣(下側の芥川沿い)には**高槻市立芥川緑地プール(ぷるびあ)**があり、夏期休暇中にちびっ子の水遊びに利用される。このあくあびあ芥川の上側の入口には、JR高槻駅に向かう「南平台小学校前」バス停がある。

## コラム ② 芥川の水質

芥川の中流域北部は大阪のベッドタウンとして住宅開発で、下流域は多くの水田が消失し、工場・事業場や物資輸送の倉庫群等が進出して、昭和60年代頃までは水質汚濁が進んでいた。その後の下水道整備の進行や、平成10年前後からの相次ぐ工場の撤退等で、芥川中流域の水質は改善した。工場・事業場の多い如是川は本流に比べて水質改善が遅れていたが、現在はかなり良くなりつつある。

芥川は上流の北側が山林の高地部から中流部の丘陵地の住宅地を経て、下流部の工場・事業場の多い地域を経て南側低地の淀川に合流する南北で土地利用形態が変化する特徴を有している。したがって、摂津峡下流端の塚脇橋は、昭和60年代頃は現在よりもわずかにBODは高めであったが、以前から清流状態は保たれていたようである。ただ、芥川

と東隣の桧尾川の上流域には操業中の山砂利採取場があり、降雨時には灰濁しがちである。参考までに、大阪府のホームページから得られる芥川(如是川の合流後)の環境基準点(鷺打橋;下流点)の年度ごとの水質平均値(mg/l)の経年変化を示しておく。



〔芥川下流鷺打橋のBOD, T-N, T-Pの経年変化〕

## 4 桜堤公園 芥川下流ゾーン

さらに下って、住宅街の迫る**大蔵司橋**から**高槻橋**、とくに**門前橋**から**芥川橋**の間は河川堤防上と高水敷が**桜堤公園**として整備され、桜並木で春は美しく、親水活動のために河原まで階段状の堤や緑の芝生、滑り台、流れを横切れる飛び石等が備わっている。とくに桜の4月は賑わい、4月末からの大型連休には河川を横断して鯉のぼり1,000匹を河川敷一杯に泳がせるこいのぼりフェスタ1000が毎年実施されて人気を呼んでいる。

桜堤公園区間の左岸側堤防上の道路は「**夢鯉ロード**」と名付けられ、右岸側の堤防上の道路は歩行者・自転車道路に整備されている。右岸側に広場があり、ベンチや遊具が備えられている。この間が市民の散策やウオーキングの場として市民の利用度が高い。

淀川本川から芥川の中流域まで、**農業用水取水堰・落差工**がたくさんあり、水質の改善にもかかわらず、アユ等の魚は上流までは遡上できない。近年、河川環境向上の実践活動が活発になって河川の清掃活動等にとどまらず、役所(高槻市や大阪府茨木河川事務所)と市民に大学等の研究者も交え、「芥川・ひとと魚にやさしい川づくり委員会」(芥川倶楽部)が組織され、2011年には下流側から5ヶ所の魚道を完成させて、やっと淀川より約5km上流(あくあびあ芥川付近)まで魚の遡上が可能となった。

芥川を国道171号線、JR東海道線、阪急京都線をくぐって下ると、左岸側の西には**高槻城跡**があり、史跡公園として整備され**高槻市立歴史民族資料館**(入場無料)がある。

さらに芥川は、工場・事業場の多い南部の下流



桜堤公園全景と桜



桜堤公園の飛び石風景



夢鯉ロード表示



桜堤公園の魚道



桜堤公園下流の落差工の魚道



高槻市立歴史民族資料館



芥川大橋上流に新設された魚道



京都大学阿武山地震観測所入口



芥川を跨ぐ府営水道水管橋

域を流れ、**芥川大橋**のすぐ上流で**如是川**を合流し、**次郎四郎橋**や環境基準点の**鷺打橋**を流下して、淀川に注ぐことになる。最近、このすぐ上流側でも魚道設置の堰の改修工事が行われた。

淀川に流入する流末端から約2.5km上流の芥川大橋の上流側で、西側から支川の如是川が芥川に合流する。如是川の上流部西側には古くから**京都大学阿武山地震観測所**があるが、その直下まで住宅団地が迫り、東側では大阪薬科大学、霊仙寺、関西大学高槻キャンパスがあり、工場等の進出が進んだ結果、芥川本川より水質が悪い。

1970年の大阪万国博覧会で必要な大量の上水を、村野浄水場から会場に流送するために、芥川の淀川合流点近くで、淀川を美しい水管橋(ランガー橋)として渡ってきた太い水道管が、芥川大橋下流側を跨いで通る風景も見られる。

### コラム 3 芥川倶楽部

芥川は、高槻市の中心部を南北に流れ、人と魚にやさしい川、豊かな自然生態系が回復しつつある高槻のシンボルの川として、水遊び、散歩やジョギング、水と緑の風の通りみち、貴重なオープンスペース、ハイキングコース等で、市民に親しまれている。この芥川は、住宅街の市街地が直ぐ川そばまで迫るほどで、アクセスの良い貴重なオープンスペース、風の道でもある。下水道整備とともに水質が改善し、魚等の水生生物と住民とのふれあいをさらに進めるために、「芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク(愛称:芥川倶楽部)」が、高槻市民に、市役所等の行政機関や研究者等も加わって2005年に発足し、市民を巻き込んで、芥川と係わる様々なイベントを含む活動を展開してきた。

「こいのぼりフェスタ1000」や魚の遡上できる魚道「魚みちづくり」が特筆される活動であろう。「芥川倶楽部」の名の機関誌や「芥川水辺だより」を発行している。2008年にネットワークの充実化を目指し、「NPO法人芥川倶楽部」として発足して、現在に至り、継続して活発な市民活動を展開している。



【川づくり活動の表示】

その中下流部には、茨木市の最東部にある継体天皇陵の少し東側に位置する**史跡今城塚古墳** (340m×350mで二重濠の前方後円墳)がある。前方後円墳の淀川右岸側の三島平野での存在は、極めて珍しいことと言われている。高槻市は、高槻市立埋蔵文化財調査センターを中心に、**今城塚**自体の発掘調査とともに、その荒廃した墳丘や環濠等を修復して史跡公園(いましろ大王の杜)としての整備を行うとともに、新設された**今城塚古代歴史館**(入場無料)で展示も行っている。



史跡今城塚古墳 (上:整備前 下:整備後)



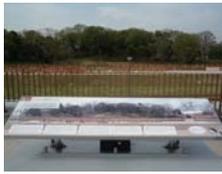
家型ハニワ



コンクリート製模型



発掘写真



史跡内のはにわ公園

## コラム ④ 今城塚古墳

今城塚古墳は、JR高槻駅から西北西に直線距離で約2,200m、JR東海道線や国道171号の北側、名神高速道路の南側の郡家地区に位置する。この古墳の1,500m西南西の茨木市最東部には、継体天皇陵とされる陵墓(太田茶臼山古墳、全長226m、5世紀中葉の築造と推定)が存在し、こちらは今城塚より年代が古く、宮内庁指定の陵墓となっていて、立ち入りはできない。

今城塚は、古墳の形状や埴輪などの年代的特徴や「古事記」、「日本書紀」、「延喜式」等によると、6世紀の大和朝廷の大王墓であり、6世紀前半に没した継体天皇の真の陵墓、と推定するのが学会の定説らしい。陵墓が集中する大和・河内地域のほかで、畿内北部の淀川流域の陵墓ゆえに注目に値する。宮内庁指定の陵墓には入っていないため、これまで長年の間に、地震による墳丘の崩壊や戦国時代

に砦を造りかけたりしたことがあったほか、近所の人の魚釣り場や犬を連れて散歩道となっていた。

現在は周囲が柵で囲まれ、水と緑が輝く史跡公園(いましろ大王の杜)として整備が済み、はにわ公園や遊歩道等が整備されて、この2011年4月に新装デビューした。その北隣に古代体感ミュージアム「今城塚古代歴史館」も併せて開設され、駐車場など周辺の整備が進んで、来場者を待っている状況にある。



【今城塚古代歴史館】



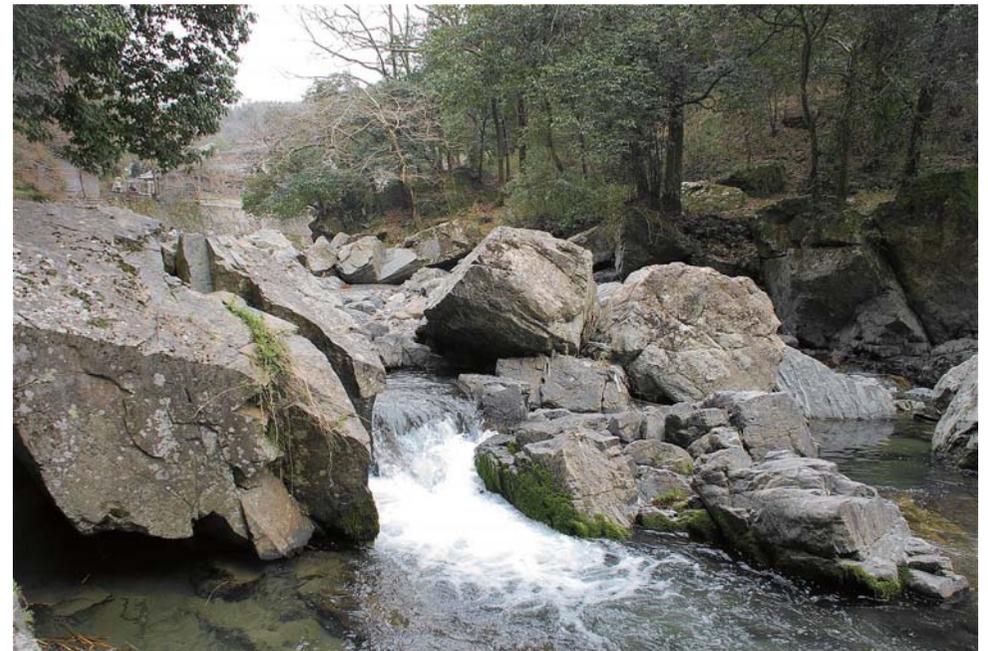
逆流遡上防止用の背割矢板のある番田井路



番田大樋の遺構

芥川の流量は決して多くなく、芥川や桧尾川下流域の水田群には、淀川右岸からの灌漑用水として**五領用水**や**三箇牧用水**から取水されて、水田を潤していた。

工場群や住宅群が進出して、水田は減っているが、まだ栽培緑地としてかなり残っており、秋にはコスモス畑も出現する。下流域低地の汚濁された排水や**淀川右岸流域下水道**の終末処理場(**高槻水みらいセンター**)の放流水は、地盤の低い湿地の水田地帯の悪水排除のための**番田井路**(水路)に入り、芥川には流入せず**伏せ越し**(かつての**番田の大樋の遺構**あり)で横断し、茨木市や摂津市を経て、西隣の安威川と併走し、さらに**三箇牧水路**と合流して、最終的には安威川より少し先に**神崎川**に流入することになる。



摂津峡の渓谷